

付記

観光研究

ここでは、わが国の観光の発展に寄与する学術面での「観光研究の動き」を概観する。

(1) 日本国内の観光関連学会

データベース「学会名鑑」(日本学術会議、公益財団法人日本学術協力財団、国立研究開発法人科学技術振興機構)によると、2019年8月現在、国内主要学術団体(2038件)のうち、学会名称に「観光」「ツーリズム」「旅行」「リゾート」「余暇」「レジャー」「レクリエーション」「ホスピタリティ」のいずれかの語を含む学会(以下「国内の観光関連学会」)は、合計で12団体である(表 付記-1)。

2018年度には、コンテンツツーリズム学会(2011年設立)が、新たに日本学術会議協力学術研究団体に指定されている(2019年3月28日付)。同学会は、コンテンツツーリズムとは「地域に『コンテンツを通じて醸成された地域固有のイメージ』としての『物語性』『テーマ性』を付加し、その物語性を観光資源として活用すること」であるとして、コンテンツを活用した観光振興及び地域活性化の研究と実践のための活動を行っている。

この他、「学会名鑑」には掲載されていないものの、観光関連の学会活動を行っている団体には、日本旅行医学会(2002年設立)、日本環太平洋観光学会(2007年)、ものがたり観光行動学会(2009年)、国際観光医療学会(2010年)、長期滞在型・ロングステイ観光学会(2016年)などがある。

①全国大会

主な国内の観光関連学会の大会テーマは、「都市観光の展望と課題」(日本観光学会)、「レジャー・レクリエーションのデスティネーション(目的地)づくり」(日本レジャー・レクリエーション学会)、「余暇ツーリズムと地域興隆」(余暇ツーリズム学会)、「スポーツと観光」(日本国際観光学会)、「自然環境共生とホスピタリティ・マネジメント」(日本ホスピタリティ・マネジメント学会)、「観光をめぐる新しい動向と観光ホスピタリティ教育」(日本観光ホスピタリティ教育学会)などであった。

②機関誌・学会誌

各学会が発行する機関誌・学会誌は合計13誌である。2018年度に発行された機関誌・学会誌の中で特集テーマが設定されていたものとしては、「観光の経済効果と地域財源の確保」(日本観光研究学会)、「おみやげは越えていく-オーセンティシティ・ローカリティ・コモディティ」(デジタルテクノロジーとツーリズムの関係性を問う)(観光学術学会)、「急増するイ

ンバウンドと観光情報」(観光情報学会)などがあった。

(2) 大学・大学院

「観光」「ツーリズム」「ホスピタリティ」のいずれかの語を含む学部、学科を有する大学は43、大学院は9存在している(表 付記-2)。2018年度は、琉球大学が観光産業科学部(観光科学科、産業経営学科)を、国際地域創造学部国際地域創造学科の1学科へと改組した。一方、首都大学東京は、都市環境学部自然・文化ツーリズムコースを観光科学科へと改組し、1年生から学部学生を受け入れるようになった。

観光産業における人材育成が課題となっているなか、観光庁では、宿泊業をはじめとした地域の観光産業の経営力強化や生産性向上を目指して、全国10大学にて「社会人向け講座」(募集人員各大学20名程度、受講料原則無料)を開講した(表 付記-3)。また東京都も東洋大学と連携して、インバウンド振興にあたり地域や企業でリーダーの役割を担う人材の育成を目的に、「観光経営人材育成講座」(定員30名、受講料無料)を開講した。

(3) 科学研究費助成事業における観光学の扱い

2018年度の科学研究費助成事業(以下、科研費)「観光学関連」(小区分80020)における新規採択件数は79件、研究種目の内訳は若手研究17件、基盤研究(B)8件、基盤研究(C)54件であった。今後、配分される科研費の合計は3億5,607万円となっている。

研究のキーワードとしては、観光(11)、インバウンド(5)、DMO(4)、地域振興(3)、文化遺産(3)、観光地経営(3)、観光政策(3)、観光資源(3)などが多く設定されている。

新規採択件数を研究機関別にみると、3件採択された大学は、北海道大学(総配布額22,100千円)、首都大学東京(同11,960千円)、立命館アジア太平洋大学(同25,090千円)であり、2件で和歌山大学、高崎経済大学、奈良県立大学、帝京大学、東海大学、日本大学、名城大学、日本交通公社が続く。

(吉澤清良)

表 付記-2 日本の観光関連大学・大学院の数

	大学	学部	学科	大学院
2018年度	43	16	45	9
2017年度	42	17	44	9
2016年度	44	17	46	9

(注) 大学の場合は学部・学科名に、大学院の場合は研究科・専攻名に「観光」「ツーリズム」「ホスピタリティ」という言葉を含むもののみをカウント。

資料：文部科学省「年度別開設大学等一覧」、各大学サイトより(公財)日本交通公社作成

表 付記-1 国内の観光関連学会の概要

(設立年順)

	学会名・会員数	会長、本部/事務局、支部	活動内容	学会誌(機関誌)、大会論文集
1	<p>日本観光学会 Japan Academic Society of Tourism (JAST)</p> <p>○正会員 205名 ○準会員(大学院生) 28名 ○賛助会員 1名 (2019年7月現在)</p>	<p>【会長】 神頭広好(愛知大学)</p> <p>【本部/事務局】 青山学院大学社会情報学部 長橋研究室内</p> <p>【支部】 東北・北海道支部、関東支部、 中部支部、関西・中四国支部、 九州・沖縄支部</p>	<p>○全国大会の開催(年1回、研究報告、シンポジウム、学会総会等) (2018年度第112回全国大会テーマ:都市観光の展望と課題)</p> <p>○支部会(研究発表会、支部総会)の開催</p> <p>○第2回学生観光プレゼン大会(関東支部主催)</p> <p>○機関誌の発行(『日本観光学会誌』、年1回)</p> <p>○学会賞の授与</p>	<p>【学会誌】 『日本観光学会誌』 (1996年～、年1回) (前身『日本観光学会研究報告』1961～ 1995年) (2018年度:第59号 論文4本、研究ノ ート2本、編集委員会寄稿1本、書評2本)</p> <p>【大会論文集】 『研究発表要旨集』 (年1回)</p>
2	<p>日本レジャー・レクリエー ション学会 Japan society of Leisure and Recreation Studies (JSLRS)</p> <p>○正会員 296名 ○購読会員 22団体 (2019年3月現在)</p>	<p>【会長】 坂口正治(東洋大学)</p> <p>【本部/事務局】 早稲田大学 前橋明研究室内</p> <p>【支部】 なし</p>	<p>○学会大会(年1回、地域研究、基調講演、シンポジウム、研究発表、 ワークショップ、総会等) (2018年度第48回学会大会テーマ:レジャー・レクリエーション のデスティネーション(目的地)づくり)</p> <p>○研究会・講演会等の開催</p> <p>○機関誌の発行(『レジャー・レクリエーション研究』)</p> <p>○学会ニュースの発行(年2～3回)</p> <p>○学会賞の授与(日本レジャー・レクリエーション学会賞(学会賞、 研究奨励賞、支援実践奨励賞、貢献賞)、2007年～)</p> <p>○研究の助成(研究助成金制度、2011年～)</p> <p>○内外の諸団体との連絡と情報の交換(世界レジャー機関、全米レ クリエーション公園協会との情報交換、ホームページのリンク等)</p>	<p>【学会誌】 『レジャー・レクリエーション研究』 (1992年～、年2回) (前身『レクリエーション研究』1965～ 1991年) (2018年度:第85号 原著2本、研究資 料1本/第86号 第48回学会発表論文集 /第87号 原著2本、第48回学会大会基 調講演1本、シンポジウム5本)</p> <p>【大会論文集】 なし(学会誌に発表要旨を掲載)</p>
3	<p>余暇ツーリズム学会 The Association for Leisure and Tourism Studies</p> <p>○研究者 141名 ○実務家 77名 ○大学院生 38名 ○賛助会員 7名 (2019年8月現在)</p>	<p>【会長】 長谷川恵一(早稲田大学)</p> <p>【本部/事務局】 早稲田大学商学大学院 長谷 川恵一研究室内</p> <p>【支部】 関東支部、九州支部</p>	<p>○学会大会の開催(年1回、自由論議報告、会員総会、統一論議報告・ 討論等) (2018年度第6回全国大会テーマ:余暇ツーリズムと地域興隆) ※2012年6月、日本余暇学会とツーリズム学会の統合後、第6回 目の開催</p> <p>○支部大会の開催(年1～2回、研究発表等)</p> <p>○研究部会の開催(ライフスタイル研究部会、観光地域ストーリー 研究部会、ヘルス・スポーツツーリズム研究部会、飲料サービ ス研究部会、レジャー・スタディーズ研究部会、エンタテイン メント・ツーリズム研究部会、プライダル研究部会、ツーリ ズム心理研究部会、学生教育研究部会)</p> <p>○学会誌の発行(『余暇ツーリズム学会誌』)</p> <p>○ニュースレターの発行(年数回)</p> <p>○図書の編集(『余暇学を学ぶ人のために』『余暇事業論一多様化す る余暇事業の未来予測』等、合計4冊)</p> <p>○受託研究</p> <p>○会員の研究活動支援</p> <p>○学会賞の授与(2016年～)</p>	<p>【学会誌】 『余暇ツーリズム学会誌』 (前身『余暇学研究』1998～2013年) (2014年3月～、年1回) (2018年度:第6号 論文7本、研究ノ ート2本、特別寄稿論文(統一論議)3本)</p> <p>【大会論文集】 『余暇ツーリズム学会大会研究報告予稿集』 (2013年～、年1回)</p>
4	<p>日本観光研究学会 Japan Institute of Tourism Research (JITR)</p> <p>○正会員 1,033名 ○準会員 8名 ○名誉会員 9名 ○賛助会員 6団体 ○特別会員 8団体 (2019年7月現在)</p>	<p>【会長】 下村彰男(東京大学大学院)</p> <p>【本部/事務局】 豊島区西池袋4-16-19 コンフォ ルト池袋106</p> <p>【支部】 関西支部(2003年7月設立)、九 州・韓国南部支部(2007年4 月設立)、東北支部(2015年3 月設立)</p>	<p>○全国大会の開催(年1回、講演会、シンポジウム、研究発表等) (2018年度第33回全国大会シンポジウムテーマ:場所の記憶を歩 く～日常風景の観光化～)</p> <p>○総会の開催(年1回、講演、学会賞表彰、シンポジウム)</p> <p>○研究分科会の設置、助成</p> <p>○研究懇話会(年2回、1月と7月)の開催</p> <p>○支部の活動</p> <p>○機関誌の発行(『観光研究』)</p> <p>○観光学全集の発行</p> <p>○会務報告の発行(『会務報告』、年2回)</p> <p>○メールニュースの配信</p> <p>○特別研究の助成</p> <p>○学会賞の授与(論文奨励賞、観光著作賞、2007年度～)</p> <p>○優秀論文賞の授与</p> <p>○図書の監修(『観光学全集』全10巻予定)</p> <p>○観光研究に関する外国諸団体との交流 等</p>	<p>【学会誌】 『観光研究』 (1987年～、年2回) (2018年度:Vol.30 No.1 論文2本、資 料1本、論説1本、学会活動報告/Vol.30 No.2 論文4本、研究ノート1本、特集『観 光の経済効果と地域財源の確保』5本、学 会活動報告)</p> <p>【大会論文集】 『全国大会学術論文集』 (1986年～、年1回)</p>
5	<p>日本国際観光学会 Japan Foundation for International Tourism (JAFIT)</p> <p>○正会員 375名 ○学生会員 36名 ○名誉会員 2名 ○賛助会員 2団体 (2019年7月現在)</p>	<p>【会長】 島川崇(東洋大学)</p> <p>【本部/事務局】 渋谷区神宮前6-19-3 東邦ビル 5階 Tel: 03-3400-1630</p> <p>【支部】 なし</p>	<p>○全国大会の開催(年1回、基調講演、研究発表等) (2018年度第22回全国大会テーマ:スポーツと観光)</p> <p>○例会の開催(研究発表、講演、年5回)</p> <p>○論文集の発行(『日本国際観光学会論文集』)</p> <p>○産学協同セミナー「ツーリズム・フォーラム」の開催(年6回、 2003年～)</p> <p>○自由論議の発行(年1回)</p> <p>○国内外でのシンポジウム開催</p> <p>○国際観光研修旅行の実施</p> <p>○教科書・学術書の出版</p> <p>○懸賞論文の実施(太田記念国際観光懸賞論文)</p> <p>○国際観光に関する学術調査及び研究</p> <p>○内外の企業、団体、個人からの委託研究</p> <p>○関連学会、協会との連絡及び交流</p>	<p>【学会誌】 『日本国際観光学会論文集』 (1993年～、年1回) (2018年度:第26号 論文14本、研 究ノート9本、施工房・日本国際観光学会 助成研究プロジェクト報告1本)</p> <p>【大会論文集】 『全国大会梗概集』 (2001年～、年1回発行)</p>
6	<p>日本ホスピタリティ・マネ ジメント学会 Japan Academic Society of Hospitality Management(JASH)</p> <p>○正会員 261名 ○学生会員 3名 ○名誉会員 6名 (2019年9月現在)</p>	<p>【会長】 山本壽夫(日本大学)</p> <p>【本部/事務局】 日本大学 山本壽夫研究室内</p> <p>【支部】 関東支部、関西支部、九州支部</p>	<p>○全国大会の開催(年1回、研究発表、年次総会、基調講演、パネ ルディスカッション等) (2018年度第27回全国大会テーマ:自然環境共生とホスピタ リティ・マネジメント)</p> <p>○研究専門部会の開催(適宜)</p> <p>○研究発表会(各支部それぞれ年2回)</p> <p>○学会誌の発行(『HOSPITALITY』『International Journal of Japan Academic Society of Hospitality Management』)</p> <p>○図書・報告等の発行</p> <p>○学会賞の授与(日本ホスピタリティ・マネジメント学会大賞等)</p> <p>○内外の学会、その他関連団体との連絡</p>	<p>【学会誌】 『HOSPITALITY』 (1993年～2012年度:年1回、2013～2015 年度:年2回、2016年度～:年1回) (2018年度:第29号 論文9本、研究ノ ート1本)</p> <p>『International Journal of Japan Academic Society of Hospitality Management』 (2012年～、年1回(2013年は年2本)) (2018年度:Vol.5 No.1 論文2本)</p> <p>【大会論文集】 なし</p>

付記

観光研究

	学会名・会員数	会長、本部/事務局、支部	活動内容	学会誌(機関誌)、大会論文集
7	総合観光学会 The Japan Society for Interdisciplinary Tourism Studies ○正会員 195名 ○学生会員 43名 ○法人会員 5団体 (2019年3月現在)	【会長】 山下晋司(帝京平成大学) 【本部/事務局】 日本大学 商学部内 【支部】 なし	○全国学術研究大会の開催(年2回、研究発表、シンポジウム、特別講演、自由論題報告、パネルディスカッション、視察研究等) ○学会誌の発行(『総合観光研究』) ○会報の発行 ○海外の研究者との交流 ○研究成果を著書として発刊 ○観光関連の文献・データの収集	【学会誌】 『総合観光研究』 (2002年～、年1回) 【大会論文集】 なし
8	観光まちづくり学会 The Society of Tourism and Community Design ○正会員 113名 ○学生会員 4名 ○法人会員 3団体 ○名誉会員 6名 (2019年9月末現在)	【会長】 細野昌和(北海商科大学) 【本部/事務局】 (一社) 岩手県土木技術センター内 【支部】 北海道支部(2008年～)	○役員会、総会の開催 ○研究大会の開催(年1回、基調講演、研究発表、会員総会等) (2018年度第17回研究発表会基調講演テーマ:日伯交流に見るブラジルのまちづくりの課題と展望について) ○講演会、講習会の開催 ○調査研究、視察会の開催 ○学会誌の発行(『観光まちづくり学会誌』) ○学会賞の授与(学術論文賞・優秀発表賞)	【学会誌】 『観光まちづくり学会誌』 (2003年～、年1回) (2018年度:第16号 論文2本、報告2本) 【大会論文集】 なし(学会誌及び学会ホームページに掲載)
9	日本観光ホスピタリティ教育学会 The Japanese Society of Tourism and Hospitality Educators (JSTHE) ○正会員 159名 ○准会員 16名 ○特別会員 1団体 ○名誉会員 4名 (2019年8月現在)	【会長】 小畑力人(大阪初芝学園) 【本部/事務局】 杏林大学外国語学部内 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、講演、事例報告、教育実践報告・研究教育論文発表、ワークショップ等) (2018年度第18回全国大会テーマ:観光をめぐる新しい動向と観光ホスピタリティ教育) ○総会・シンポジウムの開催(年1回) ○研究会の開催(年1～3回) ○機関誌の発行(『観光ホスピタリティ教育』) ○学術論文集の発行(『全国大会論文集』) ○学会報の発行(年3回程度)	【学会誌】 『観光ホスピタリティ教育』 (2006年～、年1回) (2018年度:第12号 論文1本、教育実践報告1本、書評3本、全国大会報告、総会報告) 【大会論文集】 『全国大会論文集』 (年1回)
10	観光情報学会 Society for Tourism Informatics ○正会員 171名 ○賛助会員 41名 ○団体会員 5団体 (2019年7月現在)	【会長】 大数多可志(日本海国際交流センター) 【本部/事務局】 北海道大学大学院情報科学研究科内 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、基調講演、パネル討論、学術講演セッション、総会等) (2018年度第15回全国大会基調講演テーマ:観光地経営におけるDMOの果たすべきマネジメント機能) ○研究発表会の開催(年2回、研究発表、エクスカーション) ○観光情報学研究会の開催(さっぽろ、はこだて、かが・のと、たいせつカムイ、ちゅうしこく、いわて、オホーツク圏、とうかい、きゅうしゅう、さんいんさんよう) ○学会誌の発行(『観光と情報』) ○賞の授与(大会優秀賞、大会奨励賞、研究発表会優秀賞、研究発表会奨励賞、功労賞) ○メールニュースの配信 ○情報提供事業、コンサルティング、活動支援 等	【学会誌】 『観光と情報』 (2005年度～、年1回) (2018年度:第14巻 学術研究論文6本、特集記事3本) 【大会論文集】 『全国大会講演予稿集』 (2004年度～、年1回) 『研究発表会講演論文集』 (2009年度～、年2回)
11	コンテンツツーリズム学会 THE ACADEMY OF CONTENTS TOURISM (ACT) ○正会員 108名 ○学生会員(大学院生) 18名 (2019年3月現在)	【会長】 増淵敏之(法政大学) 【本部/事務局】 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-3-9 法政大学大学院政策創造研究科増淵敏之研究室内 【支部】 なし	○論文発表大会(年1回、特別講演、論文発表、講評等) (2018年度第6回全国大会特別講演テーマ:私たちのミライチケット～「ラプライフ!サンシャイン!!」と一緒に輝きたい～) ○学術論文集の発行(『コンテンツツーリズム学会論文集』) ○シンポジウムの開催(年1回)(2018年度基調講演テーマ:コンテンツツーリズムとテレビ～テレ東流ハンドを武器にする旅番組～/パネルディスカッションテーマ:コンテンツツーリズムとテレビ) ○研究会(不定期開催)	【学会誌】 『コンテンツツーリズム学会論文集』 (2014年度～、年1回) (2018年度:論文2本、研究ノート3本) 【大会論文集】 なし
12	観光学術学会 Japan Society for Tourism Studies(JSTS) ○正会員(一般) 346名 ○正会員(院生) 80名 ○正会員(シニア) 2名 ○准会員 2名 ○名誉会員 1名 (2019年7月現在)	【会長】 橋本和也(京都文教大学) 【本部/事務局】 (有)CR-ASSIST(大阪府) 【支部】 なし	○全国大会の開催(年1回、基調講演、フォーラム、大学院生育成セミナー、学生ポスターセッション、一般研究発表等) (2018年度第7回全国大会シンポジウムテーマ:デジタルデバイスがツーリズムにもたらすものを展望する) ○研究集会の開催(2018年度第6回研究集会テーマ:伝統芸能と観光) ○機関誌の発行(『観光学評論』) ○学会賞の授与(著作賞、論文賞、教育・啓蒙著作賞など8種、2013年度～) ○図書等の刊行 ○観光学の研究調査 ○国内外の学術団体、学会との連絡・交流	【学会誌】 『観光学評論』 (2012年度～、年1回/2013年度～、年2回) (2018年度:vol.7 No.1 特集論文5本、書評1本/vol.6 No.2 萌芽論文1本、特集論文4本、書評1本) 【大会論文集】 『全国大会発表要旨集』 (2012年度～、年1回)

(注) データベース「学会名鑑」(日本学術会議、公益財団法人日本学術協力財団、国立研究開発法人科学技術振興機構、http://gakkaui.jst.go.jp/gakkai/)に収録されている国内の主要学術団体(2,038件)のうち、学会名称に「観光」「ツーリズム」「旅行」「リゾート」「余暇」「レジャー」「レクリエーション」「ホスピタリティ」のいずれかの語が含まれる学会を「国内の観光関連学会」として抽出した。
資料: データベース「学会名鑑」、各学会ホームページ、各学会への聞き取り調査から(公財)日本交通公社作成(2019年9月現在)

表 付記-3 地域の観光産業を担う中核人材育成講座のテーマ(2018年度)

大学	講座テーマ
青森大学	自然資源を活かした体験型観光商品開発セミナー
明海大学	宿泊施設に従事するミドルマネジメント層育成プログラム
東洋大学	ホスピタリティ産業における女性活躍と組織づくり講座
横浜商科大学	MICE ビジネス中核人材育成講座
信州大学	山岳観光資源を活かしたユニバーサルツーリズム推進人材育成事業
神戸山手大学	ツーリズムプロデューサー養成講座
鹿児島大学	世界自然遺産によるエコツアー DMO 形成のための中核人材育成プログラム
小樽商科大学	観光産業の中核を担う経営人材育成講座
和歌山大学	観光カリスマ講座
大分大学	宿泊業のイノベーションと経営課題

資料: 観光庁ホームページより(公財)日本交通公社作成

表 付記-5 科研費「観光学関連」の採択件数の上位研究機関(2018年度)

研究機関	採択件数	総配布額(千円)
北海道大学	3	22,100
首都大学東京	3	11,960
立命館アジア太平洋大学	3	25,090
和歌山大学	2	8,320
高崎経済大学	2	8,190
奈良県立大学	2	3,510
帝京大学	2	8,060
東海大学	2	5,850
日本大学	2	8,710
名城大学	2	8,450
公益財団法人日本交通公社	2	8,450

(注) 審査区分において「小区分80020:観光学関連」、また研究期間の開始年度が2018年度のものを対象としている。
資料: 科学研究費助成事業データベースより(公財)日本交通公社作成

表 付記-4 科研費「観光学関連」の新規採択研究課題(2018年度～)

研究課題	研究種目	代表研究機関
コンテンツツーリズムにおけるコト・モノ・ヒトの相互作用に関する実態調査研究	若手研究	大手前大学
旅行費用法に基づく仮想行動法による観光地全体のレクリエーション価値の計測の精緻化	若手研究	名城大学
観光分野における起業家の育成と支援に関する研究	若手研究	静岡英和学院大学
リアルタイムの情報提供による自律的な不利益回避と観光行動の誘発に関する実証研究	若手研究	東洋大学
ポリネシア・ツバルにおける気候変動ツーリズムと観光経験	若手研究	東京経済大学
地域の観光施策立案・評価に向けた統計データ分析に関する研究	若手研究	東海大学
イスラミック・ツーリズムにおける観光経験のコンテキスト・プラクティスをめぐる研究	若手研究	高崎経済大学
多層ネットワーク構造形成によるフード・ツーリズムの持続性に関する研究	若手研究	秀明大学
近現代の比叡山におけるツーリズム空間化による教団システムの変容	若手研究	名城大学
価値共創の視点からの移住・定住促進に関する研究	若手研究	奈良県立大学
開発途上国における観光者の問題視される行動に関する研究	若手研究	奈良県立大学
宗教的聖地における聖性イメージとマネジメントに関する研究	若手研究	大阪府立大学
郷土菓子の「真正性」と農村ツーリズム振興：日仏比較から	若手研究	大阪市立大学
観光政策立案実践の為に自治体職員に必要な専門スキル把握と教育プログラムの提案	若手研究	首都大学東京
周辺地域における海岸観光地の存立基盤と適正利用に関する比較研究	若手研究	首都大学東京
台湾の農村地域における観光資源の利用実態の解明に向けたビッグデータによる空間分析	若手研究	総合地球環境学研究所
観光協会のDMO化に関する組織論的研究	若手研究	北海道大学
The opportunity development for the role of Japanese food overseas as an ambassador for tourism marketing	基盤研究(B)	立命館アジア太平洋大学
Uncovering the black-box of educational dark tourism: Comparative analysis of the mechanisms of packaging and perceiving of war narratives through war heritage sites between former enemies	基盤研究(B)	立命館アジア太平洋大学
持続的なまちづくりの視点からみた負の現地遺構の保存活用に関する研究	基盤研究(B)	長崎大学
サステナブルツーリズムによるSDGsの推進：レジリエンスを基盤として	基盤研究(B)	和歌山大学
観光地域における資源戦略のための地域資源の高度利用プロセスの研究	基盤研究(B)	北陸先端科学技術大学院大学
伝統工芸品の魅力を発信する多感覚融合ICTシステムの開発	基盤研究(B)	宇都宮大学
「観光の組織化」と地域構造変容のダイナミズムに基づく次世代観光戦略の構築	基盤研究(B)	山形大学
拡張精緻化見込モデルによる東アジア・インバウンド観光者の情報消費行動研究	基盤研究(B)	北海道大学
センサーデータと深層学習を活用した車いす観光のための最適経路導出	基盤研究(C)	苫小牧工業高等専門学校
説得的コミュニケーションによる外国人観光客の普及啓発—地獄谷野猿公苑の事例研究	基盤研究(C)	立命館アジア太平洋大学
道に焦点を当てた、トルコ地中海地方の観光の発展と変容に関する社会人類学的研究	基盤研究(C)	福岡女学院大学
ワインツーリズムの空間的展開と地域の変容に関する総合的研究—スペインを事例にして	基盤研究(C)	久留米大学
観光と社会空間の再構築に関する文化人類学的研究 —長島をめぐる—	基盤研究(C)	就実大学
サービス人材の業務能力と問題解決スタイルが顧客価値に与える影響：旅館を中心に	基盤研究(C)	帝塚山大学
ガストロノミーを資源としたフードトレイルのマネジメントと創造性に関する研究	基盤研究(C)	大阪成蹊大学
持続可能な観光と国際認証の有効性に関する多面的分析	基盤研究(C)	名城大学
高齢化社会におけるバリアフリー観光推進のための観光地内協力関係の構築に関する研究	基盤研究(C)	岐阜聖徳学園大学
訪日外国人旅行者との対話モデルの構築：対話原理に基づく意味共有と価値創造の体系化	基盤研究(C)	日本女子大学
東日本におけるクルーズ観光活性化のための新たな寄港地選定と誘致方策の検討	基盤研究(C)	日本大学
世界遺産登録が地域社会に及ぼす影響に関する事例研究—まなざしと再帰性から	基盤研究(C)	日本大学
多文化ネットワークによる地域活性化とインバウンド観光振興に関する社会学的研究	基盤研究(C)	東海大学
歴史的建造物の再生に関わるステークホルダーの構造的関係～自立的運用モデルの構築～	基盤研究(C)	帝京大学
「こだわり」の旅が自分らしさの感覚に与える影響：「フォトジェニックな旅」の効果	基盤研究(C)	帝京大学
ペーパートレイル：高齢化・健康志向時代における自然歩道システムの役割とその再構築	基盤研究(C)	大正大学
欧州における日本のポップカルチャー・イベントの形成・発展プロセスに関する研究	基盤研究(C)	青山学院大学
外国人人材を活用した日本のインバウンド観光の持続的発展に関する研究	基盤研究(C)	城西国際大学
個人旅行者の受け入れによる農家民泊経営モデルの構築	基盤研究(C)	千葉商科大学
マルチステークホルダーの視点に基づく観光地競争力構築の有効性と限界に関する研究	基盤研究(C)	東北学院大学
観光過疎地域における地域ポテンシャルの発掘手法に関する研究	基盤研究(C)	札幌国際大学
人の観光にかかる意思決定構造のモデル化とローカル・リビングヘリテージの維持・保全	基盤研究(C)	滋賀県立大学
実際の観光地におけるキャプション評価法を用いた中国人による観光資源の認識構造	基盤研究(C)	広島大学
学際的アプローチによる相互利益に配慮したボランティア・ツーリズムに関する研究	基盤研究(C)	和歌山大学
独逸の観光事業に見る「ロマンティック・イメージ」形成についての文化史的研究	基盤研究(C)	横浜国立大学
観光地経営におけるDMOとステークホルダーの関係性マネジメント	基盤研究(C)	群馬大学
法的視点を通じた民泊制度の再評価	基盤研究(C)	福島大学
The role of intra-cultural and cross-cultural tourist-tourist interactions in the tourism service encounter	基盤研究(C)	小樽商科大学
地方創生と働き方改革時代における旅館業界の人材確保・育成に関する研究	基盤研究(C)	公益財団法人日本交通公社
観光地におけるサービス経済社会に適した持続力ある多様な連携形成のあり方	基盤研究(C)	公益財団法人日本交通公社
ワインツーリズム推進策の国際比較的地域からの政策人類学的な分析	基盤研究(C)	国立民族学博物館
ダークツーリズムを援用した災害記憶ならびに復興記憶の継承手法確立	基盤研究(C)	熊本学園大学
民俗芸能のグローバル化と実践的観光活用に関する研究	基盤研究(C)	筑紫女学院大学
高関与旅行者における意思決定プロセスのモデル化—アニメ聖地巡礼を事例として—	基盤研究(C)	関東学院大学
観光地における街路修景と生活基盤の質的向上に向けた街区整備手法の評価	基盤研究(C)	広島工業大学
観光政策と文化政策の政策統合に関する国際比較研究—文化観光に着目して—	基盤研究(C)	摂南大学
ツーリズムクラスター形成を促す地域エコシステムとしてのDMOの理論的・実証的研究	基盤研究(C)	近畿大学
DESTINATION・ブランディングにおけるDMOモデルの研究	基盤研究(C)	関西大学
地域における観光人材戦略の構築と理論化	基盤研究(C)	京都文教大学
現代アートの「異化効果」に注目した、アートツーリズムによる認知構造転換の実証分析	基盤研究(C)	京都産業大学
観光倫理教育の深化に向けた哲学的・倫理学的基礎研究	基盤研究(C)	京都外国語大学
ネット社会におけるインバウンド観光客・定住者を意識した文化伝達の言語表現	基盤研究(C)	中央大学
ESDに立脚する小中高一貫した観光教育のカリキュラムの構築	基盤研究(C)	玉川大学
東アジアにおけるボーダーレス観光推進に向けたフレームワークの構築に関する研究	基盤研究(C)	杏林大学
コンテンツツーリズムにおける歴史像の構築と歴史系博物館の役割に関する実証的研究	基盤研究(C)	桜美林大学
行動論的分析を基軸とした新たな観光まちづくり手法に関する実践的研究	基盤研究(C)	山口県立大学
都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性	基盤研究(C)	首都大学東京
小規模旅館業の労働生産性向上に資する実証的研究	基盤研究(C)	高崎経済大学
アニメコンテンツをめぐる製作者・地域・ファンの関係の持続性に関する総合的研究	基盤研究(C)	愛媛大学
アートツーリズムのエスノグラフィ：地方国際芸術祭の深化と拡充の理論化に向けて	基盤研究(C)	追手門学院大学
地域ブランド評価による地域性の比較に関する研究	基盤研究(C)	鳥取大学
アクターネットワーク理論を用いた名古屋大都市圏の観光農園の展開過程に関する研究	基盤研究(C)	岐阜大学
主観的・探求的価値に基づく地域遺産の価値整理と観光魅力化に関する手法の体系化	基盤研究(C)	東京工業大学
DESTINATION経験価値 マーケティングの理論と手法の構築	基盤研究(C)	北海道大学

(注) 審査区分において「小区分80020：観光学関連」、また研究期間の開始年度が2018年度のものを対象としている。

資料：科学研究費助成事業データベースより(公財)日本交通公社作成